道徳と日文 これまでも、これからも

文部科学省検定済教科書 2020年度版
小学校道徳科用

小学道徳 生きる力
1～6年

●各学年道徳ノート付き。
●朱書・板書編，研究編，指導者用デジタル教材，デジタルデータ集，朗読音声CDからなる教師用指導書完備！

文部科学省検定済教科書 2019年度版
中学校道徳科用

中学道徳 あすを生きる
1～3年

●各学年道徳ノート付き。
●解説編，朱書編，デジタルデータ集，指導者用デジタル教科書からなる教師用指導書完備！

日文webサイトにて動画配信中！

「昇太師匠と考えよう」

春風亭昇太師匠が伝統文化や友情について子どもたちと語り合います。

動く！とくだ先生！

大好評の道徳教育マンガをアニメーションにしました。道徳教育について，より楽しく考えられるようになっています。

～お知らせ～

「平成 30 年度版　小学道徳　生きる力　教師用指導書」の付録「指導者用デジタル教科書 DVD-ROM」において，動作環境に一部，不具合がございました。32bit，64bit 対応と記載しておりますが，32bit 版のパソコンの環境では作動しない機能が一部ございます。32bit 版をご利用の皆様には，たいへんご迷惑をおかけいたしますこと，深くお詫び申し上げます。
なお，32bit 対応版がご入り用の方は，弊社ホームページの「ご要望・お問い合わせフォーム」よりお知らせください。

どうとくのひろば No.23

日文教育資料［道徳］
令和元年（2019年）5月15日発行
編集・発行人　佐々木秀樹
発行所　日本文教出版株式会社
〒558-0041　大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL：06-6692-1261

本資料は2020年度版小学校道徳科内容解説資料として扱われます。

本書の無断転載・複製を禁じます。

デザイン：モスリングラフィック
CD33449

日本文教出版 株式会社
http://www.nichibun-g.co.jp/

大阪本社　〒558-0041　大阪市住吉区南住吉4-7-5　TEL:06-6692-1261　FAX:06-6606-5171
東京本社　〒165-0026　東京都中野区新井1-2-16　TEL:03-3389-4611　FAX:03-3389-4618
九州支社　〒810-0022　福岡市中央区薬院3-11-14　TEL:092-531-7696　FAX:092-521-3938
東海支社　〒461-0004　名古屋市東区葵1-13-18-7F・B　TEL:052-979-7260　FAX:052-979-7261
北海道出張所　〒001-0909　札幌市北区新琴似9-12-1-1　TEL:011-764-1201　FAX:011-764-0690

日文教育資料［道徳］

どうとくのひろば

No.23

教科書特集号

特集1 2020 年の小学校道徳はどうなる？…2

特集2 2020 年版『小学道徳 生きる力』はこう使う！
『小学道徳　生きる力』の特徴 …… 8
学びの流れが見える …… 10
学習の手引き …… 12
道徳ノート …… 16

教師用指導書のご案内 …… 18

見てわかる！ 道徳
「規則の尊重（遵法精神，公徳心）」
「生命の尊さ」
［越智 貢，上村 崇，奥田秀巳］ …… 22

実践事例【中学校】
「体験活動」との関連に重点をおいた指導方法［大内弘全］ …… 24

こんなとき，どうする？
子どもに，「先生は道徳で習うことが全部できているの」と聞かれたら？
［山本 洋，多田義男，濱野裕美］ …… 26

地球の仲間からのメッセージ
動物たちの暮らしを豊かにする
［長瀬健二郎］ …… 27

本資料は，一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則り，配布を許可されているものです。

日文の教科書情報
詳しくはWebへ！ 日文 検索

未来をになう子どもたちへ
日本文教出版

2020年の小学校道徳に向けて，6人の著者による座談会を開催！

2019年2月某日。
小学校道徳の教科化から約1年がたち，学校の現場はどのように変わったのか。
今後どうあるべきなのか。
また，そのために教科書をいかに活用すればよいのか。
『小学道徳　生きる力』の編集委員の先生方に熱く語っていただきました。

特集1 2020年の小学校道徳はどうなる？

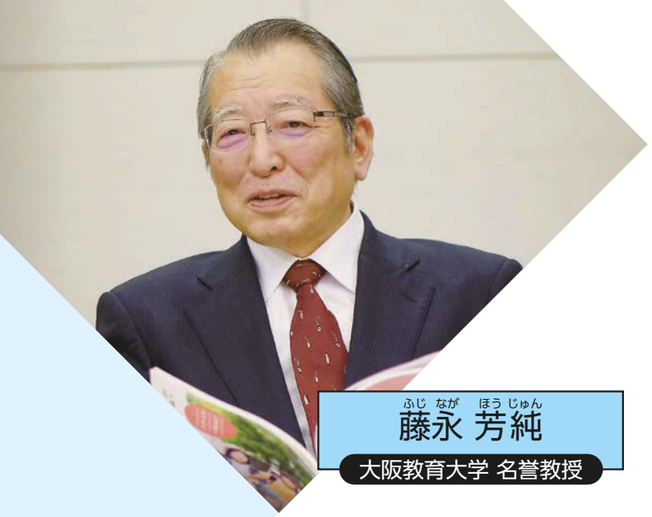
「今回の表紙もいい写真が撮れましたね。」（宮里先生）

小学校道徳の教科化から約1年，授業はどう変わったのか

服部先生●「考え，議論する道徳」の，「議論」の部分に重きを置いた授業になってきたように思います。
大原先生●校内研究で道徳科を取り上げる学校や研修会をやろうという学校が増えました。必然的に研究授業の回数も増えているようです。
島先生●「どうすれば子どもが喜ぶ魅力的な授業になるか」と考える先生が増えてきました。「わかりきったことや読み取りになってはだめなんだ」と思いながら授業をされています。「職員室で道徳の話題がたくさん出るようになった」とも聞きます。回数が増えて子どもが楽しみにするようになって，「子どもは道徳が好きなんだとわかった」という話も聞きました。
宮里先生●発問が変わってきたなと感じます。心情を主に聞いていたのを，この局面で一番ねらいに迫れるのはどこかということをずいぶん練るなど，先生の姿勢がすごく変わってこられたと感じます。子どもたちも考えることが楽しいと。
小寺先生●意識は変わったでしょうね。進んでやるというより「しなければならない」「せざるを得ない」という意識ですけどね（笑）。一方で，教科書があるから「それを使ってその通りに前から順番にすればいい」というふうに捉えてる先生もいると思います。
藤永先生●教科書ができて，時数確保の面での進展が大きいなあと感じます。また，教材の差し替えについてよく聞かれます。原則差し替えられないけれども，より効果的だと思う場合は，校長の了解を得て教育委員会に届け出るというふうに運用しているようです。

難しい教材は差し替えてもよい？

服部先生●道徳科は年間指導計画を学校ごとに比較的自由に作れるので，教科書の教材以外のものを自由に入れこんでもいいというイメージがあります。しかし，私は去年まで校長をしていましたが，そのときは教科書を前から順番にするように言っていました。
小寺先生●教科書は，季節も考えて作ってあるから。
服部先生●そうですね。それに差し替えたからといってそんなに効果的ではない場合もあると思うからです。
島先生●今までなら難しい教材のときに，他の教材をポンと持ってきたんだけれども，教科書になってそれができなくなった。そこが苦労というか，悩むところだと思いますね。
服部先生●やりにくい教材に対して「どうすればいいのか」という気持ちにもなるけれど，そこから逃げないで取り組めば，自分も少しは成長しますよね。ちょっと読んで「これは無理」「難しくてできない」「わけがわからない」などと言って安易に差し替えていたら，すぐ違うものに手を出したりつまみ食いしたりする癖がついてしまう。
宮里先生●差し替えとは違うんですけれど，他社の教材で，最後の1ページを全然扱わない授業がありました。理由を伺うと，「あの部分を扱うと子どもたちもわからないと思ったので」と。「あそこが一番大事なところですよ。教材の意味や主題に対して描かれているので，あの部分こそやらないと新しい考えに至らないと思いませんか」と言うと，「ああ，そういう意味ですか」と。子どもが混乱しそうなところを避けてしまうと学びにならないということもありますよね。
小寺先生●そういう事例はあると思いますね。おっしゃったように，難しいことをどのように処理するかが乗り越えられたら，どんどん新しいことに取り組めると思います。今まではあまり手をつけなかったけど，やり始めて，おもしろいな，やりがいあるなと思う人がおそらく出てきてる。これからどんどん増えてくるんじゃないかな。
宮里先生●「道徳がおもしろい」という声が出てきたと思いますね。
小寺先生・島先生●●うん。そうそうそう。



藤永 芳純（ふじながほうじゅん）
大阪教育大学 名誉教授

道徳のおもしろさって？

宮里先生●教材研究をちゃんとして発問を考えて，授業をしたときに，子どもから思ったような言葉が返ってくることもあるし，思っていないような反応が返ってくることもある。他の教科にはない部分がこの教科にはあるということに気がつくと，「次の教材もしっかりやろう」となるようです。
小寺先生●発問を考えてピタッと来たとき，先生はうれしいですね。また，違うことを言われても刺激を受けて「おもしろいなあ」と思うでしょうし。
藤永先生●道徳は学年とか教科を越えて職員室で共通の話題になりやすい。だから，教科の壁や学年の壁を乗り越えるには道徳を中心にしてつながるのが一番効果的で，そういったおもしろさもあるでしょうね。
島先生●普段あまり言わない子が言うようになったとか，子どもたちが生き生きと発言している，というのも先生にとったらおもしろいんでしょうね。
大原先生●道徳科の授業はいろんな手立てを駆使しないとねらいに到達しないというか，ワークシートや話し合い活動，板書を工夫して，やっと授業の成果が出てくる。先生たちはその授業づくりのおもしろさみたいなものを感じ始めてるんじゃないでしょうか。
島先生●自習させられないでしょ。といって，先生がガンガンしゃべってもだめでしょ。そこのところがおもしろいところですね。だから案外これから求められる授業になるんじゃないかなと思いますね。
藤永先生●いちばん頭の柔らかさが要求されるんですよ。決まり切ったパターンで教材を読んで，決まり切った授業の流し方をしていたら絶対１年もたないし。
小寺先生●道徳科が他の教科以上に先生の柔軟性が試される教科ではないか，ということに気づいてもらえたら，結構楽しんでもらえると思いますね。先生が一生懸命教材研究していても思いつかないようなことが，児童の中からポンと出てくる可能性がある。先生方も自分のあり方を考える機会にもしてもらえる。そういう点でも道徳科のもつ柔軟性は，いいんじゃないかなと思う。期待しすぎかな(笑)。

子どもの思わぬ反応にも対応できる柔軟さを

大原先生●先日「うばわれた自由」の授業を見たのですが，ジェラール王のようなわがままな自由はよくなくて，「みんなが幸せになるための自由は……」と順調に進んだのですが，ある子が「先生，この世の中に自由なんてありません」と言ったんです。それに先生が対応できなくて。「何言ってるんだろう」という感じで。こういうことに対応するには内容項目についての読み込みと理解が相当できていないとうまくいきません。その子は「この世の中に自由はない」とずっと主張していました。
服部先生●自由がないとどのレベルで言っているのか聞いてあげられたら，おもしろいんですけどね。
藤永先生●「本当に自由ってないのかな？」とか，「あなたが言っている自由ってどんなの？」とか。
服部先生●自由という言葉について，先生が日頃どれだけ考えているかが，問われるんですよね。自由にせよ，責任，あるいは規則にせよね。内容項目について学習指導要領の解説に書いてある内容よりももうちょっと全体が見えていて，学習指導要領がいうのは，小学校ではこの部分，２年生ではこの部分だなという「わかり」ができていると，今みたいなときに，「どのレベルの話をしているのか」と対応できるんです。
藤永先生●その意味でも小学校の先生はぜひ，中学校の学習指導要領の解説の内容項目の説明を読んでほしい。哲学的な背景をきちんと押さえていますから。
島先生●結局，柔軟性ですね。「道徳的諸価値についての理解を基に」といってみても「自由が大事だ」というくらいの理解で授業をしてしまうと，おもしろくなかったり，「とにかくそれを教えないと」という授業になってしまったりするおそれがあります。

島 恒生（しまつねお）
畿央大学大学院 教授

服部先生●「柔軟」というと何か柔らかい感じで，「どれでも受け止めるよ」という感じになるけど，それよりも広いというか。懐が深いというかね。それがあれば対応できるのですが。ただ柔らかいだけで「それもいいよね，これもいいよね」というのは違います。
島先生●まさに「多面的・多角的な」ということでしょうね。いろいろなイメージができるという。
宮里先生●私も内容項目は「中学校まで全部読んでください」と言います。低学年だけだと解釈が広がらないことがあるけれど，上の学年にその内容項目のキーワードが出ていることも多いんです。そこまでを見て，今は何年生のこの部分だ，と理解できていると，子どもたちのいろんな発言にも対応できる。それを交通整理しながら，今日行きたいところに行けますよね。

中学校・家庭・地域との連携でさらに広げる

島先生●小・中学校で一緒に研修などに取り組むところが増えてきましたね。特に中学校の先生が小学校の授業を見ることがとても多くなった。
宮里先生●見るだけでなくて，そのあとの協議会で，小中一緒のテーブルになって，先生方が「子どもたちをどう理解するか」などを議論すると，中学校の先生にとっても「そういう時期を経て中学校に上がってきているんだ」と理解しやすくなると思いますね。
小寺先生●勉強になったってよく聞きますよね。
島先生●小学校が先行しているから余計に。それはお互いの先生にとってもいいことですね。
藤永先生●研修会で一つのテーブルに幼，小，中，高，特別支援の先生を交えて発問作りをしてもらうとすごく評判がいい。発想が全然違う観点で見られると。
小寺先生●そうやって学校の先生が一生懸命やって，「家庭や地域の人を巻き込まないと道徳性の育成ができないな」という認識を持たれたから，地域への働きかけも強くなってきていると思うんですよ。そうすると，地域の人も「学校でそこまでやってくれているなら，もうちょっと考えようか」とかね。そういう形で変わってきていると思います。授業参観で道徳を公開するところもかなり増えてきたと思いますね。今までは学校だけだったのが，だんだん広くなってきた。
宮里先生●道徳に関する掲示物も増えて，保護者や地域の方の目に触れる発信を意識されていますね。

デジタル教材を活用した教材提示

宮里先生●「かぼちゃのつる」で，日本文教出版のデジタル教材を使った特別支援学級の１年生の授業を見たんですが，アニメーションの教材提示ですごく集中していました。朗読も子どもたちの理解に応じたスピードで，「こういう提示の仕方はすごくいいな」と思いました。本当に子どもたちの理解がはっきりわかり，デジタル教材の威力を見せられました。
藤永先生●デジタルといえば，挿絵等もコピーやプリントアウトしたものを使うようになりましたね。
島先生●時間の節約と言うか，そこは助かっているところかもしれませんね。

教材作りの留意点，特別な思い

大原先生●昔からの定番資料を教材にすると，この度の教科化で内容項目の解説が以前と違っていることがあるから気をつけないといけない。
藤永先生●自分が作る場合は，筋がきちんと通っていて，読んでいても引っかかるところがないのが大前提で，その次に，「考えるべき道徳」の観点がきちんと組みこまれていること。三つ目に「胸キュン」(笑)。主人公の心の動きというものを言葉で表現せずに，行動や情景を描写することで考えさせるようにするということ。形容詞をできるだけ使わないとか。そういうふうな仕掛けのある教材というのは，授業がとてもやりやすいはずなんです。

小寺 正一（こてらまさかず）
京都教育大学 名誉教授
関西外国語大学 名誉教授

大原 龍一（おおはら りゅういち）
明星大学 教授
青山学院大学 講師

島先生●子どもたちが考えたくなるような，あるいは深く考えさせることができるような教材が大事になってくる。力のある教材が必要になってきていると思います。

2020 年版の教科書で工夫した点

服部先生●低学年はいくつかの教材を差し替えました。それから保幼小連携の観点から，文字をほとんど使わない目次を作りました。かるたのように挿絵を並べて，なんとなく「こんな話かな」とかわかるように（次ページ参照）。1 年生には，目次って意外と見にくいんですよね。ダーッと文字が並んでいてね。

宮里先生●子どもが喜びそうですね。

中学年では，日野原重明先生や郡上踊りなど，実在のものを扱った教材をなるべく増やすようにと意識しました。前回はお話や生活文にやや偏っていたので，もう少し先人や地域に学ぶということを濃く出していけたらということで。

大原先生●高学年は内容項目やねらいのよりはっきりした教材に差し替えたり，なるべくツボに入るように書き換えたりしました。非常にいいものができたと思います。

それから，全学年を通して教師用指導書も評価していただきたいなと。特に全教材分つくった「指導と評価の指針」は活用していただきたいですね。

島先生●かなり見直しましたよね。子どもたちがより深く考えられるようなものになったのじゃないかな。

「道徳ノート」の役割

大原先生●ノートがあると，子どもたちにとっては自分の書いたものが散逸しない。これは大切。

藤永先生●道徳ノートは「メモ帳代わりに使う」「自分と違う友達の意見を書く」「いろいろな発表を聞いたり話し合ったりして印象に残った友達の意見を書く」場合が多いので，そういう意味では，下は完全なフリースペースの方がいいなと思いましたね。

小寺先生●道徳ノートは「あるから授業しやすい」という人と「あるから授業しにくい」という人と二分してますね。しにくいという人はやっぱり自分で授業を作れる人だという感じです。でも，あったほうがしやすいという人がまだ多いんじゃないかと思います。

島先生●この 1 年でみんなで考えて取り組む体制になってきました。次の段階として，ノートにフリースペースを設けて自由度を上げたというのは，なじむところじゃないかな。

宮里先生●最後の「振り返り」のところも，授業の最後に先生が「最後のところに○してね」と言うと，子どもたちが自然に○をしているのを見ました。これは毎回使っているんだなあって思いました。

大原先生●道徳ノートの役割は大きいと思いますよ。

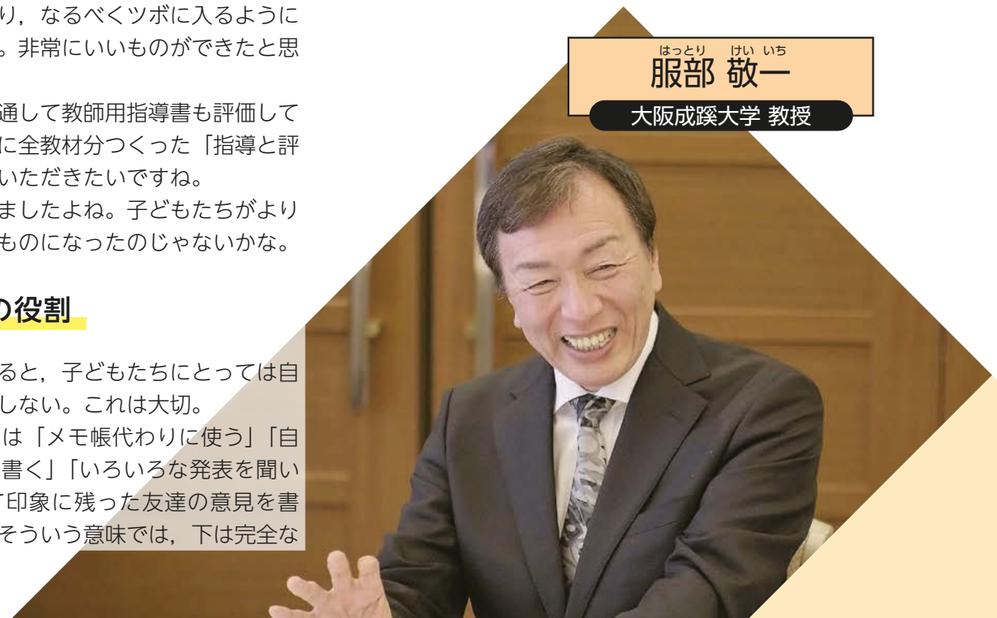
服部先生●書くという時間が，1 時間に 1 回か 2 回あるのは，とても大事なことだと思います。話し合いの中ではそんなには考えられない子どももいます。それに，みんなが発表してくれてたら，自分が発言しなくても授業が進んでいきます。ところが，書くとなると，一人でじっくり考える時間になりますし，どうしても自分の頭を使わないといけなくなります。そのときにこういうノートがあって，「視点」が書いてあるというのは大事なことだと思っています。

島先生●書くのは思考活動を深めますから，とても大事なことですね。

服部先生●それに，書いたものを先生が読めますからね。どんなことを考えてたのかなって。

小寺先生●評価に使える。

服部先生●そうですね。いわゆる通知表の評価という意味じゃなくて，子どもの理解に使えるし，同時に自分の授業の評価にもなります。「あー，意外と今日はみんなにうまく伝わってなかったんだなあ」とかね。



服部 敬一（はっとり けいいち）
大阪成蹊大学 教授

宮里 智恵（みやさと ともえ）
広島大学大学院 教授

書かせてみて初めて気がつくことってありますね。

これからの道徳科の理想と，先生方へのメッセージ

服部先生●いつも言っていることですけど，子どもにとってわかりきったことをゴールにするような授業にならないように，もっと深いところを子どもに考えさせる。なぜいいのか，どういう意味があるのかというのを含めて，子どもたちが本気で考えるような，本当に気づきになるような授業をしていきたい。

たとえば「いじめがいけない」ということは子どもたちは百も承知なので，それぞれの年齢や学年に応じた「いじめが許されない」根拠・理由を子どもの中に根づかせていく必要があるだろうなと思っています。

宮里先生●「評価はどう考えればよいでしょうか」とよく聞かれますけど，私は躊躇しなくていいと思っています。「あなたたちの成長を見守る，応援している大人がいるよ」ということを伝えるのが評価ですから。

子どもたちが不安になったり，人に意地悪をしたり，いじめをしたりしてほしくない。加害者にも被害者にもなってほしくない。だから学校あるいは家庭，地域にいる大人が，子どもたちを見ているよということを伝える。評価はそういうことだと思っています。もちろん責任を持って，言葉を選んでするんですけど。そういう思いですれば，そんなに難しく考えなくてもいいのではないかなと常々思っています。

島先生●できていないことをできるようにするとかいうものじゃなくて，子どもたちの中に育ってきている素敵な考えに，子どもたち一人ひとりが気づける時間になってほしい。そのために教材を使い，自分を見つめにいく，そして友達と話す。そのあたりのところを大事にしてほしい。先生は教材を使ってみんなで考えるということを大事にしてほしいなと思います。

それから，今はどんどん学校で研修体制もできつつあるので，みんなで取り組んでいくということを大事にして進めてもらいたいなと。そのことがいじめの問題の解決にもつながっていくと思います。

大原先生●単純に言うなら，子どもたちが待ちわびるというか，待ち遠しい時間，夢のある時間，「他の教科に振り替えちゃダメダメ。道徳やろうよ」と言われるような時間であってほしいと思います。

心の勉強なので，感動を大事にしたい。そしてもう一つ，生きることに前向きになれる授業。生きててよかったとか，これからも一生懸命生きようとか，そんな前向きになれる授業。それで最後に，共に支え合い，高め合っていこうと。色々な人が支え合って世の中ができているということを考え，意識できる授業をこれからつくっていきたいと思っています。

藤永先生●最終的には道徳科というのは哲学・倫理学の小学校版，中学校版だと思います。「人間としての生き方とはどういうことなんだ」と自分に尋ねていけるような力を育てないとだめですね。

そのためには，物の見方や考え方の基礎材料というか，素材を獲得し組み合わせる手立てを小学校のときから発達に応じて習得していく必要がある。そもそも私たちがいじめの問題に対して指導をしなきゃいけないのは，安心，安定した人間の生き方を保障するためだということです。これに尽きると思っています。

要するに，道徳科の時間は人間としての生き方について考える，その素材提供と技術習得の時間だと思うので，そういう意味では諸学のキングでもあるしベースでもあるという，壮大なイメージを持って教材を読めたら，着眼点も違ってくるかなと思います。

小寺先生●これまで研究会では，「話し合いはどうしたらいいか」とか「終末で書かせた方がいいのかどうか」とか，技術的な段階の話や形式的な話が多かったんですけど，最近は内容項目や道徳的価値に関することを説明すると，熱心に聞いていただけます。「誠実とはどういうことなのか」など。

これからは，内容項目の奥にある道徳的価値についての理解をしてもらっておく必要があるんじゃないかと。例えば，この「どうとくのひろば」に連載の「見てわかる！道徳」の内容項目の解説を読んだりして。そうすれば授業に深みが出てくると思います。

長時間にわたりありがとうございました。

1 年の絵の目次。かるた風で見た目も楽しい。

特集2 2020年版『小学道徳　生きる力』はこう使う！

『小学道徳　生きる力』の特徴

―「よりよく生きる力」を育むために―

3つの基本方針

① みずから考えたくなる！
児童の主体的な学びをサポートします

② 授業に躍動感を！
豊かな対話と学び合いのある道徳科の時間にします

③ 社会に根ざした道徳教育を！
いま・これからの社会的課題にしっかり対応し，深い学びを提供します

3つの特色

特色1 学びの流れが見える

考えを引き出す3つの発問 ―学びに見通しを

授業の進行に沿った３つの発問例で授業の流れが見え，見通しをもって豊かな学習活動を行うことができます。

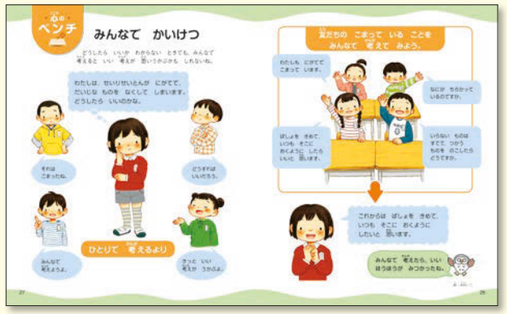
P.10～11参照

①導入のための発問例
教材に入り込むきっかけとなる発問例です。

②「考えてみよう」
教材のねらいに迫るためのヒントとなる発問例です。

③「見つめよう 生かそう」
学習を通して，気づいたこと，わかったことを自発的に確かめ，生かしていくための発問例です。

５年「ソフトボールに恩返しを ―上野由岐子―」



２年 心のベンチ「みんなで かいけつ」

学びを促し，議論を活発に

●豊かな学びの参考例 **学習の手引き**
主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）を実現する，生き生きとした授業を展開できます。

P.12～15参照

●考えを広げ深める **心のベンチ**
道徳的価値をより深く，多面的・多角的に考えられるよう，教材と関連した内容や活動を取り上げました。

特色2 いじめをなくす

重点テーマ「人との関わり」―いじめ防止ユニットで人権尊重の精神を育む

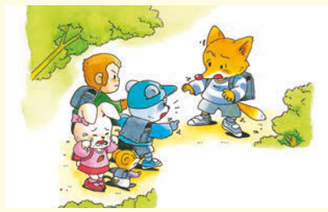
「人との関わり」を重点テーマの１つに据え，各学年３回，この教材群＝いじめ防止ユニットを扱えるように配置しています。

３年「たからさがし」

年間3回の「いじめ防止」ユニット

「人との関わり」を考える ―発達の段階に合わせた教材の精選

■ 低学年
主に身近な友達との関係を軸に，善悪や親切にすることなどについて考えます。



１年「やめろよ」

■ 中学年
集団づくりが重要なこの学年では，主に仲間同士や，学級内での人間関係について考えます。

４年「いじりといじめ」

■ 高学年
論理的思考力の発達にともない，考え方の筋道や，集団内での役割について考えます。

６年「二十五人でつないだ金メダル」

特色3 心の成長を記録する―「道徳ノート」

学びを確かなものに

各学年の教科書の別冊「道徳ノート」には，さまざまな活用法があります。授業スタイルや，子どもたちの個性に合わせて使い方を工夫できます。

P.16～17参照

６年 道徳ノート

学びの流れが見える
3つの発問 ➡P.10～11

豊かな学びの参考例
「学習の手引き」➡P.12～15

児童・学校・家庭を結ぶ
「道徳ノート」 ➡P.16～17

特集2 2020年版『小学道徳 生きる力』はこう使う!

学びの流れが見える

― 考えを引き出す３つの発問 ―

『小学道徳 生きる力』では「導入のための発問例」「考えてみよう」「見つめよう 生かそう」の３つの発問例を全教材に示しました。これらの発問例によって，先生にも児童にも授業の流れが見え，見通しをもって豊かな学習活動を行うことができます。

1 導入のための発問例

教材に入り込むきっかけとなる発問例です。教材によって，道徳的価値への導入や教材の世界への導入などの種類があります。

2 「考えてみよう」

教材のねらいに迫るための発問例です。この問いについて自分自身で考えたり，友達と議論したりすることで道徳的価値への理解を深めます。「道徳ノート」にも記入できます。

3 「見つめよう 生かそう」

2で考えたことをもとに，自分自身の経験や生活そのものを見つめて課題を見つけ，これからのよりよい生き方に生かせることは何かを考えます。

例：５年
「ソフトボールに恩返しを ― 上野由岐子 ―」

1 導入のための発問例

教材の世界への導入

児童の意識を「自分を支えてくれる人」へと方向づけたところで，教材に入っていきます。

8 感謝の思い

ソフトボールに恩返しを ―上野由岐子―

あなたを支えてくれている人はだれですか。

「ソフトボールに恩返しをしなさい。」と言われた「わたし」（上野由岐子選手）は、今までのことを思い出して……。

上野由岐子選手

宇津木かんとく

「このままだと、みんなにめいわくをかけます。目標のない人がソフトボールをやっていていいんですか？」

わたしは、宇津木かんとくにたずねた。目標を達成し、燃えつきていた。

二〇〇八（平成二十）年八月の北京オリンピック。人生で最高のしゅんかんを味わった。ソフトボール日本代表が金メダルをかくとくしたのだ。夢がかなったしゅんかん、世界一を表す人差し指を天に高く向けた。これまで流したことのないなみだが流れた。

けれど、金メダルかくとくのあと、たいせつなものを失った。ソフトボールがオリンピックの正式種目からはずれたのだ。ソフトボールはわたしのすべてだったのに。練習には行くものの、今までのように力が入らない。試合をしても、何も考えられない。少しずつ、ミスを人のせいにするようになった。九人でするソフトボールなのに一人でしている気分。（大好きだったはずのソフトボールが楽しくない。）

宇津木かんとくは、

「これからはソフトボールに恩返しをしなさい。」

と言ってくれた。その言葉の意味が分からなかった。前を向けない自分が恩返し？

好きで、自分のためにしてきたソフトボールに一体どう恩返しをすればいいのか。もがいているうちに、たくさんのことが頭の中をかけめぐった。

北京オリンピックで金メダルをかくとくしたときの上野選手（2008年）

考えてみよう

恩返しをしようと思ったとき、上野選手はどんなことを考えていたのだろう。

自分はどのような人に支えられているだろうか。また、どのように恩返しできるかな。

見つめよう 生かそう

2 「考えてみよう」

ねらいに迫るためのヒント

上野選手の考えに思いをはせることで，自分を支えてきてくれた人たちに，上野選手が感謝の気持ちをもてたことに気づくようにします。

5年
道徳ノート P.9

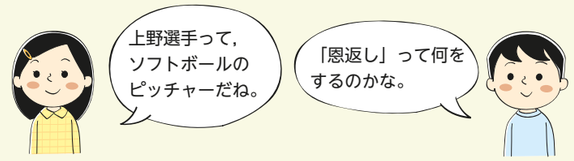
3 「見つめよう 生かそう」

気づきを確かめ，これからの自分に生かす

自分を支えてくれている人がいることに気づき，どのように恩返しをしていきたいと思うかを考えます。導入時の応答と関連づけることもできます。

あらすじ・主な登場人物

教材の内容把握を助けて，考え，議論する時間を確保しやすくしています。



特集2 2020年版『小学道徳 生きる力』はこう使う!

学習の手引き

問題解決的な学習の手法を用いた手引き

『小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編』には，問題解決的な学習を実施するにあたり，「児童が問題意識をもって学習に臨み，ねらいとする道徳的価値を追求し，多様な感じ方や考え方によって学ぶことができるようにするためには，指導方法の工夫が大切である。」と示されています。『小学道徳　生きる力』では，右記のステップによる学習を標準的なものとして学習の手引きで提案しています。

1 問題把握

教材を読んで，道徳的価値が実現されていないところ，あるいは不十分にしか実現されていないところを捉え，何が問題となっているのかをつかみます。

2 自力解決

例えば主人公の立場で考えるなどして，どのようにすれば問題が解決するのかを自分自身で考えます。ただし，日常生活レベルの解決策に陥らないように留意します。

3 集団検証

左記2の考えをペアトークやグループトークを通して友達と交流し，考えを改めたり，深めたりします。

4 まとめ

1～3の学習を通して，問題を解決するにはどのように考えていくことが大切なのかを学級全体で話し合います。

例：5年「すれちがい」

1 問題をつかもう。

問題把握

教材の中にある問題をつかみます。

よし子とえり子が仲たがいをした事象について，道徳的価値を関連づけて捉えなおし，問題を明らかにし，クラス全員で共有します。

2 自分なりに考えよう。

自力解決

それぞれの立場になって，自分の考えをもちます。

よし子とえり子それぞれの立場を自分ごととして捉えるようにします。

その後の話し合いに備え，「道徳ノート」を活用し，自分の考えをじっくりと整理します。

3 問題について話し合おう。

集団検証

同じ立場で考えた人どうしで意見を交流します。

似ている意見や異なる意見，新たに気づいた意見など，友達の意見から，自分の意見がより深まります。

それぞれの立場で意見を交流します。

児童相互あるいは教師と児童の話し合いを十分に行います。ペアトークや少人数グループ・教室内での交流活動等，適切な工夫を学級の実態に合わせて行います。

4 問題を解決するときにたいせつな考え方について話し合おう。

まとめ

学習問題について考えます。

1の「もとのように仲よくするには」を問い直すことで，よし子やえり子の問題点を指摘するだけではなく，人間関係をよりよくすることについて考えます。

■問題解決的な学習の手法を用いた手引きのある教材

学年	教材番号	教材名	教科書掲載ページ
1	28	やめろよ	108～111
2	8	一りん車	32～37
	26	やくそく	110～113
	30	ある 日の くつばこで	126～131
3	2	もっと調べたかったから	6～11
	21	お母さんのせいきゅう書	98～103
	30	ぼくのボールだ	138～143
4	7	ちこく	34～39

学年	教材番号	教材名	教科書掲載ページ
4	10	雨のバスていりゅう所で	50～55
	18	いじりといじめ	90～95
5	6	通学路	26～31
	16	真由，班長になる	76～81
	29	すれちがい	136～141
6	3	ほんとうのことだけど……	12～17
	24	青の洞門	108～115
	31	わたしのせいじゃない	146～151

特集2 2020年版『小学道徳 生きる力』はこう使う!

学習の手引き

体験的な学習等を取り入れた学習の手引き

演じてみたり声に出してみたりすること，また，演じている友達の表情や声色に注目することで，その状況下での気持ちや考え方，感じ方についての考えが膨らんだり深められたりすることが多くあります。教材活用の一助として，このような活動の手引きのページを設けました。

役割演技

3年「お父さんからの手紙」

表現活動の一つとして，児童に特定の役割を与えて即興的に演技する役割演技を取り入れた学習があります。

『小学道徳　生きる力』では，個々の役割演技の様子を写真で示していますので，配役，小道具，教師の役割などについて参考にしていただけます。

動作化

6年「心づかいと思いやり」

その場面の動きを追体験する活動です。教材で扱われた内容，もしくはそれに類似する内容を実際に動作することで，体験的に道徳的価値について考えることができます。

後片付けだけでなく整理・整頓にも広げて考えます。

実際に片付けるという行為を通して，物を大切にすること，身の回りを整えることについて考えを深めるようにします。そのことが，気持ちよい生活や使いやすさにつながることに気づき，今後は自らきれいにしていきたいという意欲が高まるようにします。

例：1年「あとかたづけ」

■体験的な学習等を取り入れた学習の手引きのある教材

学年	教材番号	教材名	教科書掲載ページ
1	8	あとかたづけ	26〜29
	14	はしの うえの おおかみ	48〜53
	16	ひつじかいの こども	58〜63
	19	どんな あいさつを しますか	72〜75
2	7	おにいちゃんの 電話	28〜31
	23	くりの み	98〜103
3	7	足りない気持ちは何だろう	30〜35
3	17	お父さんからの手紙	76〜81
4	24	新次のしょうぎ	120〜125
	29	金色の魚	142〜147
5	18	折れたタワー	88〜93
	31	うばわれた自由	148〜153
6	9	心づかいと思いやり	40〜43
	20	手品師	90〜95

学習の手引き

多様な実践活動を生かした学習の手引き

『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』では，「特別活動において，道徳的価値を意図した実践活動や体験活動が計画的に行われている場合は，そこでの児童の体験を基に道徳科において考えを深めることが有効である。」と述べています。

この手引きでは，児童が，生活や実践活動を通して考えを深めることをめざしています。

3年では

3年「学級しょうかい」

学級活動，学校生活での体験の中で感じたことを思い起こしながら，自分の学級のすばらしい学級づくりについて考えます。

6年では

6年「自分を守る力って？」

防犯教室などの特別活動の中で考えたことを思い出しながら，自分を守るための心構えについて考えます。

身近な自然について考えを深めます。

「他教科等との関連」を図ります。

観察や体験活動を通して見つけていたことを互いに発表し合います。

発見をみんなで共有することで，自然のすばらしさに対する意識を高め，大切にしていきたいと思う気持ちにつなげます。

身近な自然に思いをはせます。

写真を見ながら，自分たちの身の回りの動植物を思い出し，そのことで自然を大切にしたいという思いを高めます。

自分自身の生活を振り返ります。

「見つめよう 生かそう」を考えることで，自分自身の生活を振り返ります。

例：4年「小さな草たちにはくしゅを」

■多様な実践活動を生かした学習の手引きのある教材

学年	教材番号	教材名	教科書掲載ページ
1	29	あなたって どんな 人？	112〜115
2	15	いい ところ みいつけた	62〜67
3	13	学級しょうかい	60〜65
4	4	小さな草たちにはくしゅを	18〜23
5	10	ひとふみ十年	46〜53
6	28	自分を守る力って？	130〜135

特集2 2020年版『小学道徳 生きる力』はこう使う!

道徳ノート

― 心の成長を記録する ―

『小学道徳　生きる力』には，各学年に別冊「道徳ノート」がついています。子どもたちがノートに自分の思いを書きとめることが，友達との意見交換のきっかけになり，対話の広がり・深まりにつながります。また，子ども，家庭，学校の連携ツールとしても使えます。いろいろな使い方をお試しください！

1 使い方は自由

授業のスタイルに合わせて使えます。
ワークシートを貼りつけたり，発問を変えたりするのも自由です。

2 表現方法も自由

文章を書くことも，図や絵を描くこともできます。様々な方法で考えを深められます。

3 考えを深め，議論を活発に

子ども自身の「思い」・「考え」を深めたり，友達の意見をメモしたりして，話し合いを意義あるものにすることができます。

4 子ども，家庭，学校の連携ツールに

道徳の学習を通じた三者のコミュニケーションツールに。

1 使い方は自由

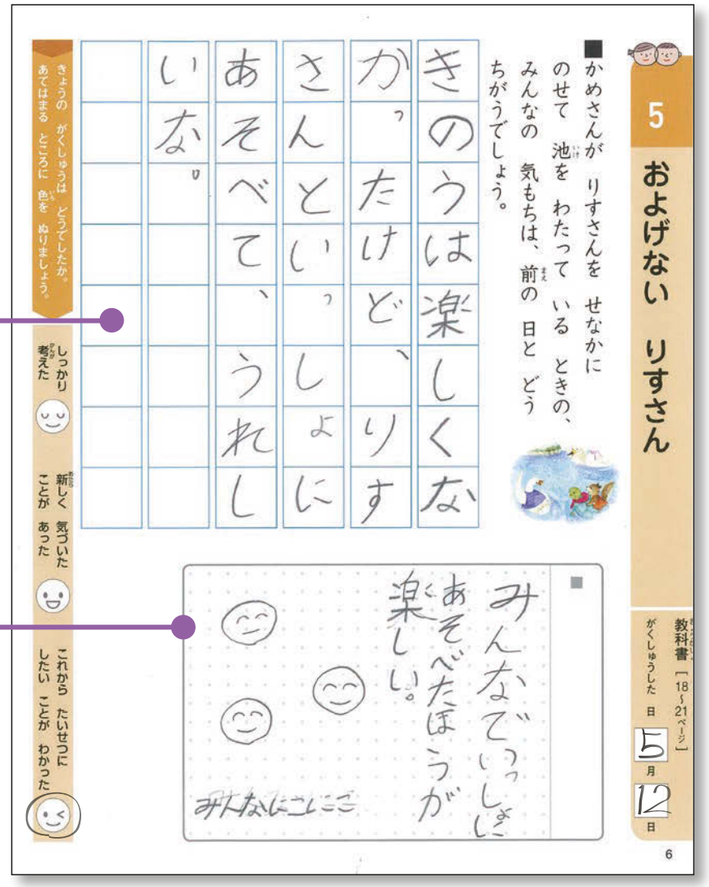
「道徳ノート」は１教材１ページ。上段は教科書の各教材の末尾にある「考えてみよう」の発問例が記載されています。
どのタイミングでノートに記入するか，どんなことを記入するかなどは，授業に合わせた使い方が可能です。
オリジナルのワークシートを貼りつけたり，教師用指導書の「デジタルデータ集」に収録の，ノートの紙面データを使ったりして発問を変えることもできます。

P.21参照

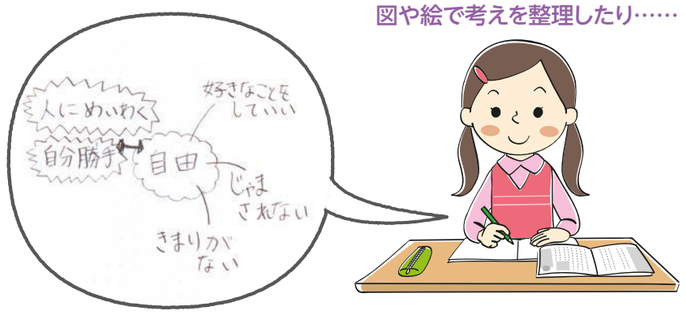
2 表現方法も自由

下段は自由記述欄です。先生からの発問への答えを書いたり，友達の考えをメモしたり使い方は自由。文章だけでなく，図や絵で考えを整理し，話し合いにつなげていくこともできます。それぞれの児童に合ったやり方で，その授業に合わせた使い方ができます。

2年 どうとくノート P.6



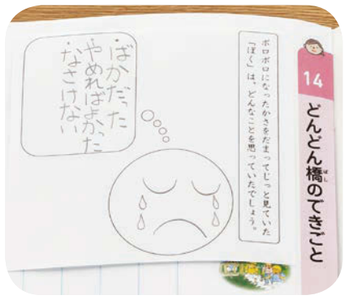
図や絵で考えを整理したり……



こんな使い方も

ワークシートを貼りつけたり，授業中に使ったふせんを貼りつけたりするなど多様な使い方ができます。

ワークシートを貼りつけたり……



3年 どうとくノート P.15

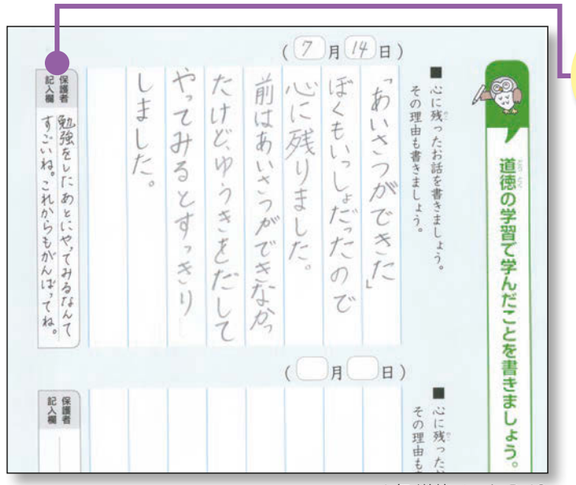
ふせんを貼りつけたり……

6年 道徳ノート P.31

以上のようにして使ったノートは子どもたちの成長の記録になります。結果として，成長のようすを見取る手立てともなり，評価の際に重要な参考資料の一つになります。

3 考えを深め，議論を活発に

子どもたちは「道徳ノート」を使うことで，自分の考えを確かめ，深めることができます。そして，話し合いを通して友達の思いや考えに気づき，知ることでさらに考えを深めます。
このサイクルを通して，「自分自身が見つけたこと」，「友達と見つけたこと」，「みんなで考えたこと」，「自分が考えたこと」を確かめ，納得することができます。



4年 道徳ノート P.40

4 子ども，家庭，学校の連携ツールに

「道徳ノート」を見れば，ご家庭でも道徳の授業でどんなことをしているのか，子どもはどんなことを考えているのか，ということがよくわかります。
また，巻末には，保護者記入欄もあります。これを活用することで，家庭－学校間のよりいっそうの連携を図ることができます。

教師用指導書のご案内

授業づくりの強い味方!

充実のラインナップ

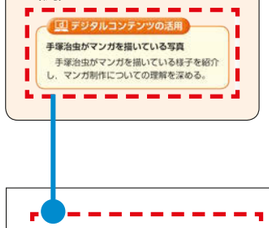
教師用指導書は２分冊と各種データで構成されています。

1. 朱書・板書編
2. 研究編
3. 指導者用デジタル教材
4. デジタルデータ集
5. 朗読音声

デジタルコンテンツとのリンク

「デジタルコンテンツ」（P.21 参照）のある教材は，ここに内容を示しています。

〈例〉



1 朱書・板書編

授業の流れがひと目でわかる

教科書の縮刷の下に板書例と学習指導過程を示しました。授業の流れに沿った発問と予想される児童の発言，指導上の留意点を教科書の見開きごとに確認できます。

デジタルデータとのリンクを明示

「指導者用デジタル教材」の各種コンテンツや「デジタルデータ集」の場面絵，また日本文教出版 web サイトの「デジタルコンテンツ」との関連を明示しました。授業でのデジタルデータの活用が図れます。

指導者用デジタル教材とのリンク

2 研究編

計画から評価までを概観できる

カリキュラム・マネジメントに基づく計画づくりから指導方法，評価まで，丁寧に解説しています。

教科書のガイドブックとして

教科書のオリエンテーションページ，「学習の手引き」や「心のベンチ」，そして「道徳ノート」の活用方法がわかります。

指導と評価の指針

〈主な掲載内容〉
- 道徳教育の全体計画の作成について
- 道徳教育の全体計画（別葉）
- 年間指導計画の作成について
- 年間指導計画案（学年別）
- 学習指導方法の工夫
- 評価の観点
- 指導と評価の指針 NEW
- 学習指導案例　　ほか

「指導と評価の指針」を新設 NEW

教材ごとに，目指す「児童の学びの姿」を示しています。

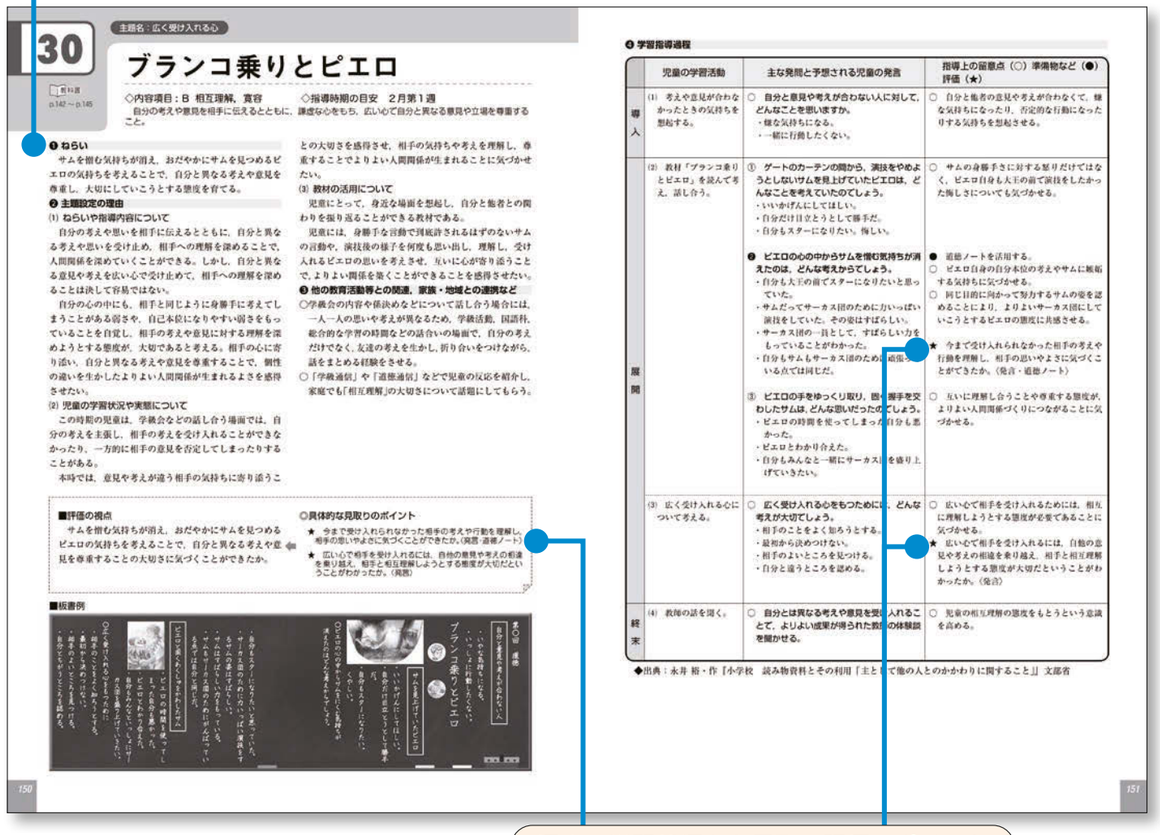
道徳科の授業の活性化を促し，評価活動の助けとなります。

各教材の「学習指導案例」

その教材に独自のねらいに基づいた学習指導案です。

評価について，児童の学習状況における見取りのポイントをわかりやすくまとめました。

その教材に独自のねらい



児童の学習状況から見取る評価のポイント

※掲載の紙面は，変更の可能性があります。

3 指導者用デジタル教材 —— 教科書がすべてデジタルに！

電子黒板やパソコンで使う教科書

教科書紙面をそのままデジタル化しました。教材提示はもちろん，マーカーを引く，ふせんを貼る，オリジナル画像をリンクするなど，思いのままに使えます。

動画・画像で世界を広げる

デジタル教材限定の，教材に関連した動画・画像を多数収録しています。

挿絵が動く！ アニメーション

「はしのうえのおおかみ」「かぼちゃのつる」「手品師」「ブランコ乗りとピエロ」など，挿絵を元にしたフルアニメーションを多数収録しています。

総ルビや反転表示機能も

本文の総ルビ表示，白黒反転，背景色の変更などもできます。

プロによる朗読音声

すべての読み物教材には，プロによる朗読音声がついています。

拡大表示

すべての顔絵・場面絵・発問例は，ワンクリックで拡大表示。朗読音声に合わせて場面絵を拡大することで紙芝居のように教材提示ができます。

※「指導者用デジタル教材」は、従来の「指導者用デジタル教科書」と同様のものです。
表示ソフトウェアは「まなビューア」を採用しています。

6年
「ブランコ乗りとピエロ」
の挿絵を使った
フルアニメーション。

6年
「それじゃ，ダメじゃん」
の関連動画。
春風亭昇太さんからの
メッセージ。

4年
「いのりの手」
の関連画像。
デューラーの作品
「野うさぎ」。

4 デジタルデータ集

いつでも役立つ素材集

道徳教育の全体計画例，年間指導計画案，学習指導案例，顔絵・場面絵など，指導計画や授業の準備に役立つ素材を揃えました。

オリジナルノートの作成も

「道徳ノート」の紙面データを使えば，発問を書き換えるなど，オリジナルノートの作成も簡単にできます。

〈主な掲載内容〉
- 道徳教育の全体計画例
- 道徳教育の全体計画別葉（月別・内容項目別）
- 年間指導計画案（学年別）
- 学習指導案例
- 顔絵・場面絵
- 「道徳ノート」紙面データ
- 「道徳ノート」フリー紙面

など

5 朗読音声

プロによる朗読音声を手軽に再生

指導者用デジタル教材と同じ朗読音声を CD に収録しました。より手軽に再生できます。

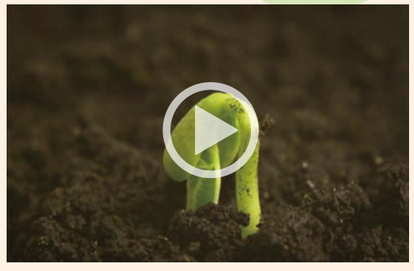
※内容や機能は変更になる可能性があります。

デジタルコンテンツ（日文 web サイトにて公開）

学習を深める web サイトのデジタルコンテンツ

このマークがついた教材は，日本文教出版 web サイト上の「教科書デジタルコンテンツ」のページで，動画や画像をご覧いただけます。（無料）

マンガを描く
手塚治虫さんの画像



発芽の動画

学習者用デジタル教科書もあります。

第10回 見てわかる！道徳

「規則の尊重（遵法精神，公徳心）」「生命の尊さ」

監修：桃山学院教育大学　教授　越智 貢
共著：福山平成大学　教授　上村 崇
富山国際大学　講師　奥田秀巳

「規則の尊重」と「生命の尊さ」

「法やきまりの意義を理解し，それらを進んで守る」（中学校学習指導要領）ことや「生命の尊さを知り，生命あるものを大切にする」（小学校学習指導要領）ことに異を唱える人はいないでしょう。これらを身につけなければ，立派な社会人とは言えません。いや，学校でも同じです。校則などを守り，校内で世話する動植物を大切にすることは，子どもたちに求められる不可欠のふるまいです。

しかし，「規則の尊重」や「生命の尊さ」は意外に難しい面を含んでいます。上記の文章を表面的に理解するだけなら，子どもたちが混乱しかねない場合が生じないとも限りません。

「規則の尊重」とその限界

例えば，小学校低学年のクラスで，学級会の時間に，「廊下を走らない」というルールを作ったとしましょう。そして，その時間が終わった直後に，ある児童が廊下を走り出したとします。この子は急におなかが痛くなったためトイレに駆け込もうとしたのです。私たちはこの行為をルール違反としてとがめることができるでしょうか。

もっとわかりやすい例があります。クラスメイトがけがをした場合，あるいは校内で不審者を見つけた場合に，廊下を走って早く先生たちに知らせようとするのは正しくないのでしょうか。むろん，そうではありません。いいかげんな気持ちできまりや法を破ることは許されませんが，人を助けるために，あえてきまりや法を破らざるをえない場合もあるのです。

それゆえ，きまりや法を理解する際には，いわゆる「緊急避難」という例外があることもあわせて理解しておかなければなりません。そして，そのためにも，なぜきまりや法を守らなければならないのかをよく考えておく必要があるのです。

「生命の尊さ」とその背景

このように，少し振り返るだけでも，道徳の問題を表面的に捉えてはならないことがわかってきます。「生命の尊さ」も例外ではありません。尊い生命を奪わざるをえない私たちの現実があるからです。

作物を食べる害虫を駆除することはその生命を奪うことですし，森を伐採したり海を埋め立てたりすることも，そこに棲む生き物の生命を奪うことに直結します。そもそも，私たちが生きるためには，動物や植物を食料にせざるをえないのです。

「生命の尊さ」は，私たちがそうした生き方をせざるをえないことを自覚した上で主張されている理念です。すべての生命を奪わないことや，単に生き物をかわいがることを意味する訳ではありません。

人間の生命が奪われてしまう現実すらあることを忘れてはなりません。医療では一人の生命を救うために別の生命を犠牲にせざるをえない場合がありますし，大災害になると一人の生命よりも複数の生命を優先せざるをえない場合も生じます。そして，何より悔しいことに，人類は，戦争という人間の生命を破壊し合う愚かな行為をいまだに克服できないでいるのです。

「モラル・ジレンマ」

こうした「規則の尊重」と「生命の尊さ」とが選言の関係になると，問題はさらに複雑になってきます。私たちの日常には，友情と正直の衝突など，多くのジレンマが潜んでいますが，「規則の尊重」と「生命の尊さ」も，廊下を走る例で示唆されていたように，しばしば衝突し合います。

コールバーグが用いた「ハインツのジレンマ*」はその例の一つです。法を守ることと妻の命を救うこととのジレンマの中に立たされたとき，ハインツは法を破って薬を盗むことを選択します。コールバーグはハインツの行為の是非を問いますが，正解を示そうとはしませんでした。「規則の尊重」と「生命の尊さ」とが衝突すると，一律的な解答を見出すことが難しくなり，さらに子どもたちの発達段階を考慮に入れれば，ますます困難になるからです。

「考え，議論する道徳」

私たちは，「～すべきだ」という道徳的な指針を理解していても，その指針に反せざるをえない判断を迫られることがあります。その際，重要なのは「～せざるをえない」という私たちの判断がはたして正しい判断であるか否かをよく見極めることです。道徳科が，以前の「道徳の時間」と異なる方向として，「考え，議論する道徳」というモットーを掲げたのは，こうしたこととも無縁ではないのです。

＊ハインツのジレンマ……難病の妻を助けたいが，唯一の治療薬を買うお金を持たないハインツが，その薬を盗もうと薬局に忍び込む，という教材。

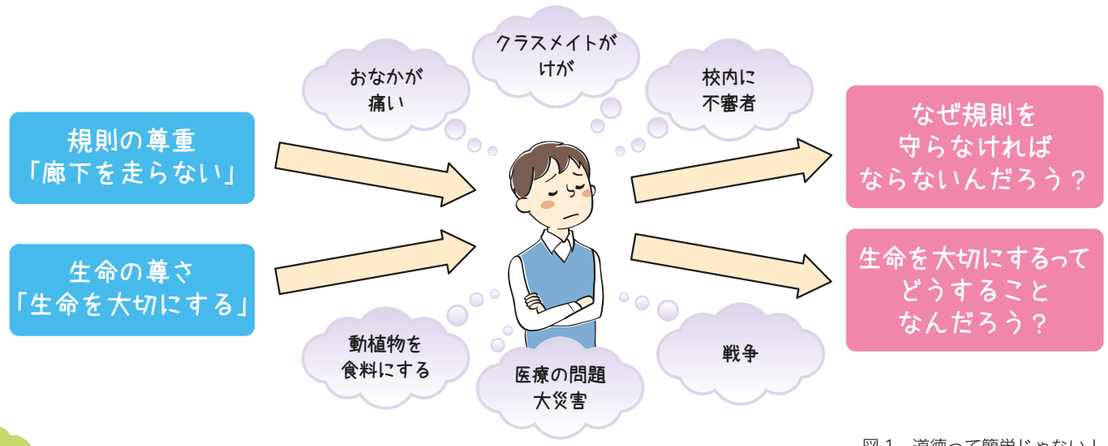


図１　道徳って簡単じゃない！

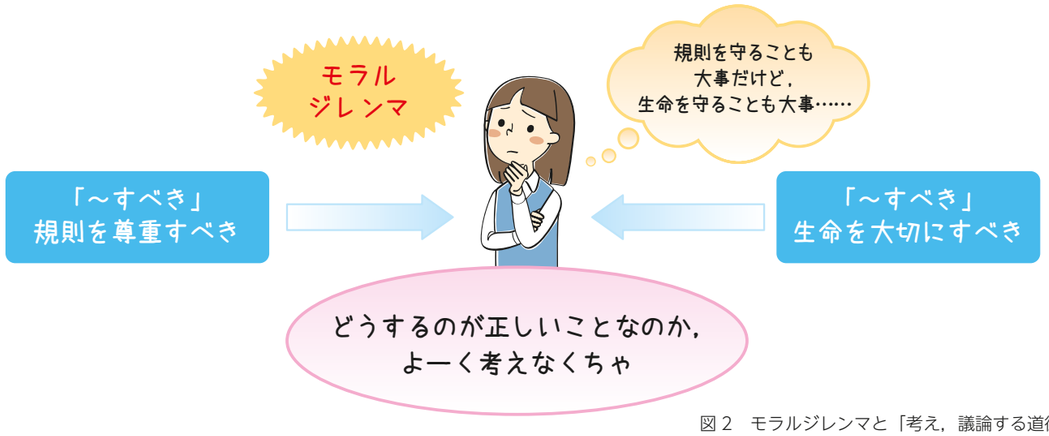
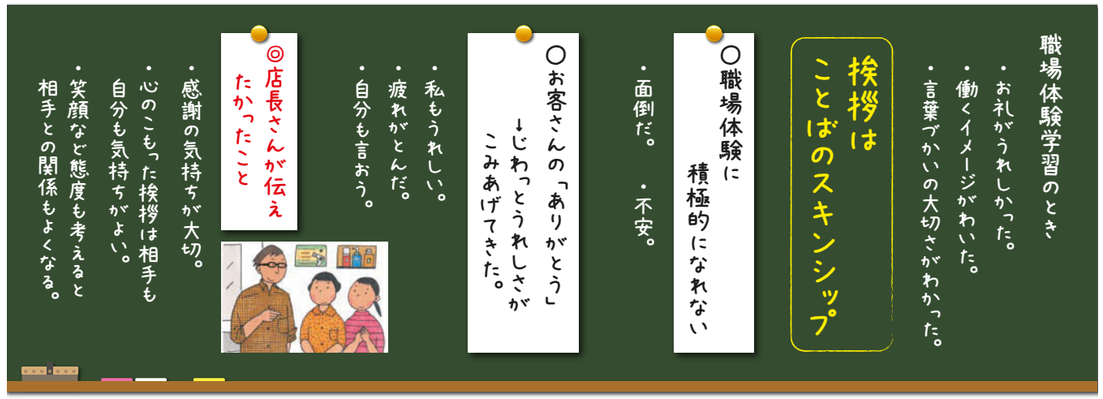


図２　モラルジレンマと「考え，議論する道徳」

「体験活動」との関連に重点をおいた指導方法

渋谷区立松濤中学校　主幹教諭　大内弘全



1 はじめに

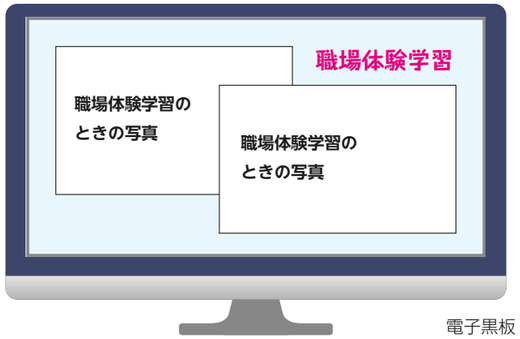
新学習指導要領では，カリキュラム・マネジメントが求められるため，学校の教育活動全体で行う道徳教育での「豊かな体験」と道徳科での指導を関連づけることがますます重要になる。生徒は，「豊かな体験」を通して気づく様々な道徳的価値から深く考えることができ，その結果，道徳性がより確かに定着する。道徳科の授業では，職場体験活動やボランティア活動，自然体験活動などの体験活動を生かし，心に響く多様な指導の工夫に努めることが大切であると考える。

このことから，道徳科の授業と「職場体験学習」の体験活動を関連づけた実践事例を紹介する。

2 職場体験学習（総合的な学習の時間）と道徳科の授業

道徳科の授業に職場体験学習についての教材を取り上げることで，生徒たちに自らが行った職場体験学習の追体験をさせることができる。生徒たちは自己の気持ちを具体的に振り返ることができ，さらに他の生徒の発言を聞くことによって，考え方や感じ方にふくらみや広がりができる。

職場体験学習における達成感が，内面に根ざした道徳性をよび起こし，さらに職場体験学習が自らの生き方に直接関わることを実感することで，生徒自身の内面から道徳性が生じてくることが期待できるのである。



電子黒板

渋谷区では，職場体験学習は「総合的な学習の時間」に実施している。そこで，本授業は「体験活動」のみではなく「総合的な学習の時間」との関連も考慮して行った。

「総合的な学習の時間」においては実践的なことがらが中心となるが，それだけでは有意義な「体験活動」にはならない。総合的な学習から生まれた「自己の生き方の探求」と道徳科の授業で育成された「道徳性」が結びついてはじめて有意義な「体験活動」に発展するのである。これによって，生徒たちの道徳的行為に向かう意欲や態度が育成されるだろう。自ら道徳性を形成することで，希望をもって生きることができるようになると考える。

展開例

内容項目：B「礼儀」

主題名　心を形に

教材名　挨拶はことばのスキンシップ（『新　あすを生きる２』日本文教出版）

ねらい　礼儀の意義を理解し，時と場に応じた適切な言動をとることができる。

	学習活動（◎中心発問，○主な発問，・予想される生徒の反応）	◇指導上の留意点，◆指導上の工夫
導入	**1　職場体験学習の写真を見て，職場体験学習を思い出す。** **○職場体験学習でどんなことを感じたか。** ・おじいさんにお礼を言われてうれしかった。 ・園児がかわいかった。将来働くことをイメージしやすくなった。 ・言葉づかいが大切なことがわかった。	◆実際の職場体験学習のときの写真を電子黒板などで提示する。 ◇ただ単に思い出すのではなく，ねらい「礼儀の意義」「時と場に応じた適切な言動」に沿った学習活動になるようにする。
展開	**2　教材「挨拶はことばのスキンシップ」の範読を，自分の職場体験学習を思い出しながら聞き，考える。** **○どうして，「わたしは」職場体験学習に積極的になれなかったのか。** ・面倒だから。 ・体験先の人は怖くないか，など不安に思った。 **○お客さんに「ありがとう」と言われて，じわっとうれしさがこみあげてきた「わたし」は，どんなことを感じたか。** ・私だってうれしいと思った。疲れがとんだ。 ・自分がお客さんのときには，言おうと思った。 **◎店長さんが，職業人として二人に伝えたかったのはどんな思いか。自分の体験を振り返りながら考えてみよう。** ・客商売は感謝の気持ちがお客さんを呼ぶ。 ・心のこもったあいさつは，相手の気持ちをよくするし，自分の気持ちもよくなる。 ・言葉だけでなく，笑顔などの態度も考え，実行すると，さらに相手との関係がよくなり，自分もうれしくなる。	◇心を込め，静かに範読する。 ◇小グループに分け，個々にワークシートに記載させ，記載内容をそれぞれに発言させる。 ◇考察した内容を相互に言い合う。時間があれば，店長・生徒に分かれた役割演技を行う。発言のルールに則り，互いの考察内容を尊重する雰囲気をより高める。 ◇自らの体験を踏まえて発言するように促す。 ◇自分の職場体験学習や，学校・日常の生活と結びつけて考察させる。
終末	**3　自分の職場体験学習を振り返って，本時の感想を書く。**	◆再び職場体験学習のときの写真を掲示する。 ◇自分の職場体験学習と結びつけて考えたことを評価に生かし，本時の学習活動を生かし，自己の今後の生き方につなげ，まとめる。

3 まとめ

実践の結果，自分たちの体験活動と関連づけて具体的に考え，生徒相互の対話が活発になり，自己の見方や考え方が深まった。感想文などからは自分自身の成長を実感する記載が多く見られ，評価することができた。また，導入・終末段階で職場体験学習の様子の写真を提示することは効果的であった。

意図的に体験活動と関連させて道徳科の授業を実施することによって，道徳的実践意欲と態度が育成され，道徳科で道徳的価値の自覚を深めさせることができたと考える。また，教材を活用する際に，生徒の体験活動を盛り込むなどの工夫をすることにより，自分自身の体験と重ねながら考えることができ，さらに道徳性が高まると感じた。

授業の中でも生徒は，自分自身の成長を実感している様子が見られた。さらに日常の生活の中で，積極的に挨拶をするのはもちろんだが，笑顔で相手に正対し，適切な言葉がけをするなど，挨拶の仕方にも変化が見られるようになった。

こんなとき，どうする？

今回のテーマ

子どもに，「先生は道徳で習うことが全部できているの」と聞かれたら？

子どもたちと接する中で出てくる，「こんなとき，どうする？」。
道徳教育をより輝かせるためのヒントを，先生方に教えていただきました。

先生と子どもが共に考え，共に語り合う

荒川区立第四峡田小学校
校長　山本　洋

先生という立場ですが，全部はできていません。人間は誰でも「よりよく生きたい」と願っています。しかし人間は，よりよく生きるために大切なことでもなかなか実現できない弱さももっているのです。道徳科は，みなさんがこれからの人生を「よりよく生きるための力」を身につける時間です。「よりよく生きるための力」は，一方的に教えられて身につくものではありません。先生とみなさんが人間としてのよりよい生き方を求め，人間としての在り方や生き方の基礎となる課題（内容項目）について，共に考え，共に語り合う中で，理解を深めたり，自己を見つめたり，物事を多面的・多角的に考えたり，自己の生き方についての考えを深めたりしながら身につけていくのです。そこが道徳科と他の教科の違うところです。

教師と子どもたちが共に考え続ける授業

筑波大学附属中学校
教諭　多田義男

道徳で習うことが全部できている人は，世の中に一人もいないと思います。もちろん，先生も同じです。けれども人はみな，「少しでも自分をよくしていきたい」と思って毎日生活をしています。道徳の授業は，教師と子どもたちが，人間としてのよりよい生き方を求め，共に考え，共に語り合い，広い視野に立って人間としての生き方について考えを深めていく学習をしていく授業です。そのためには「授業の中だけで考えていればそれでよい」というのではなく，学校全体の活動や日々の生活にも授業で学んだことを結びつけ，自分でよりよい判断ができるようにしていくことが大切になります。一つの価値について，学級で意見をまとめたり，その価値を押し付けたりするのではなく，教師と子どもたちが自ら考え続ける姿勢をもつことが大切です。

子どもと共に創る道徳授業

明星大学
教授　濱野裕美

子どもたちが人間としてよりよく生きるために道徳的価値を理解することは大切なことです。しかし，それを実現することは容易なことではなく，それが人間らしさであることに気づかせることも重要なことです。教師も真の人間的成長を求めながら迷い悩み，日々葛藤している人間の一人です。ですから，「道徳の勉強って難しいね。答えは一つじゃないし，習ったからといってすぐできるものでもない。だから，先生もみんなと一緒に道徳の勉強を頑張って，毎時間自分の心と向き合っているんだよ。もっといい自分になるために，幸せになるためにどう生きていけばいいのか，一緒に考えていこうね。」と語りながら，子どもたちの心に寄り添い，教師自身も子どもと一緒に感じ，考えようとする真剣な姿勢が，子どもの心を動かすと思います。

地球の仲間からのメッセージ

元大阪市天王寺動物園 園長　長瀬 健二郎

動物たちの暮らしを豊かにする

▲展示場の中にエサをばらまく飼育担当者（ケルン動物園にて）

動物園は動物を見て楽しんでいただき，野生動物への知識や興味を深めていただくための施設です。そして，彼らのおかれている現状をご理解いただき，彼らが絶滅の危機から救われるように動物園が行っている事業への応援をいただければと考えています。そのために世界中の動物園の人々は，元気で活発に行動する動物や，かわいい赤ちゃんの姿をお見せすることができるよう，少しでもよい環境を彼らに提供する工夫を探っています。

そこで考え出された手法の一つが「環境エンリッチメント」と呼ばれるものです。エンリッチメントとは豊かにすること。すなわち動物が暮らす環境を豊かにしてあげることが環境エンリッチメントなのです。

クマを例にとりましょう。野生ではクマは数十平方キロメートルという広いテリトリーを持っています。それだけの広さがないとあの大きな体を維持するだけのエサを確保することができないのです。一方，動物園では十分なエサを与えていますが，広さが足りません。給餌箱にエサを入れて与えれば，彼らは一日分のエサを数十分で食べ尽くしてしまいます。食べ尽くしてしまえばもうすることはありません。動物園のクマたちは暇で暇で仕方がない，というのが実情です。

そこで考えられた環境エンリッチメントの一つが，エサを広くばらまいたり，隠したりして与えるという方法です。ばらまかれたり，隠されたりしていると，クマはエサを探さなければならなくなります。飼育担当者とクマの知恵比べです。壁の隙間に隠したり，木の洞に隠したり……，クマはエサを探して展示場の中をあちらこちらと探しまわります。こうしてエサを探すうちに時間がたってクマは暇を持て余すこともなくなる，と同時に，活発に動きまわるクマの姿をお客様に見ていただけるというわけです。

と簡単に書きましたが，それは理想で，現実にはなかなかそう簡単に事は運びません。慣れてしまえばエサがどこに隠されているか学習してしまい，すぐに見つけ出して環境エンリッチメントにならなくなってしまうのです。そこで不規則にエサが飛び出す自動給餌器を考えたり，工夫をしなければエサを取り出すことができないパズルのような給餌箱を考えたり。クマが時間を持て余すことがないような工夫を考え出すため，飼育担当者は日々知恵を絞っています。